刈谷の未来づくり提案誌

ORANGE PRESS

伊藤よしえ MAGAZINE

EDITION : SEPTEMBER 2026



9月議会 一般質問

人生１００年時代の健康戦略

市議の日常 ヒトコマ 2026

市民文教委員会 質疑

放課後の過ごし方に、新たな選択肢を

教員の働き方改革 進捗はいかに？

人生100年時代の健康戦略

自分の健康、後回し？

最近刈谷近辺を運転していると、ものすごい頻度でトレーニングジムに遭遇しませんか？それほどに世の中の健康志向が高まっているということなのでしょうか。刈谷市で調査したデータで見てみましょう。刈谷市民の六十五歳～七十四歳の男性の５０％、女性の３４％の方が運動習慣がある一方で、**四十歳～六十四歳で見ると、男性で３３％、女性で２０％と激減します。**国民健康保険の健康診査や歯科健康診査なども同様で、現役世代の受診率が低い。**仕事や子育てで忙しく、『自分のことは後回し』な現役世代の今と未来の健康をどう守るか。持続可能な社会保障制度のためにも、今から手を打たないといけない、という課題意識が発端となり、今回の一般質問では『健康』をテーマに取り上げました。**

健康づくりは仕掛けが重要

現在の刈谷市の取り組みと成果はどのようでしょうか。特定健康診査の受診率向上対策としては、ナッジ理論も活用した通知内容への変更や、特に受診率が低い四十歳～六十歳の受診者への受診インセンティブの付与が行われています。また、運動機会の創出や習慣化に向けては、幅広い世代を対象とした運動教室や健康づくり事業を展開している、とのことでした。

そもそも関心が薄い層や、『今は忙しい』が勝つ現役世代に対する打ち手としては、もう一歩踏み込んだ施策が必要だというのが私の考えです。例えば**二歳児の歯科検診・フッ素塗布は、対象者の八割程度の子どもが受けていますので、長い待ち時間の間に、保護者も歯科検診が受けられるといった『子どものついで』作戦を提案しました。**市からは、親子で参加できるイベントの開催や、無理なく自然に運動や健康チェックができる環境づくりなど、子どもを入り口とした現役世代への健康づくり施策を検討する、との答弁がありました。

運動の習慣化のきっかけづくりや定着の施策としては、民間スポーツジムの利用補助を提案しました。『習慣化』が重要ですので、月四回以上利用を３か月以上継続することで市内特産物プレゼント、などの継続インセンティブもセットで導入することも求めました。今後もフォローをして参ります。

介護予防は未来への投資

シニア向けの健康投資も重要な課題です。何故なら、**今の高齢者ができる限り元気に暮らし続けることは、その方自身の人生を豊かにするだけでなく、介護や医療を支える現役世代の負担軽減につながり、さらには子どもや孫世代が安心して暮らせる持続可能な社会保障制度にもつながるためです。**

刈谷市では昨年度からモデル事業として、**リエイブルメント（再びできるようになる）という事業が行われています。**生活機能の低下が見られる高齢者を対象に、作業療法士等の面談を通じて生活上の目標を定め、目標達成に向けて自宅で行える運動指導や生活習慣などのアドバイスを行い、高齢者自身のセルフマネジメント力の向上を図るものです。四二名の方がプログラムを終了し、介護保険サービスを利用せずに自立した生活を行っている方は三七名、約九割の方の心身機能が維持向上しているとの成果を残しているとのことです。**私からは、リエイブルメントで生活機能を回復した高齢者が再び閉じこもらないよう、地域サロンやいきいきクラブ等への接続を事業設計に組み込むことを提案しました。**

未来につなぐ健康戦略

他にも、データヘルスの取り組みや健康分野のスマートシティ実証実験について質疑を行いました。集めたデータでリスクを発見し、行動変容、介護予防につなげるというフローが機能するよう、今後も取り組みをフォローして参ります。

様々なライフステージに立つ市民一人ひとりに寄り添うこと、将来世代への責任を果たすことの両立を目指した健康戦略の前進を要望し、一般質問を終えました。皆様にもご自身や大切な人の健康につながる行動を起こされることを願います。

９月議会　市民文教委員会質疑①

放課後の過ごし方に新たな選択肢を

私の重点政策なんです！

放課後児童クラブのサービス充実は、伊藤よしえの選挙公約の一つです。**この三年間で、長期連休中のお弁当配達サービスや、保護者とクラブ間の出欠届等の電子化を要望し、実現にこぎつけました。**この九月から新たに委員を務めることになった市民文教委員会では、民間児童クラブの導入について質疑を行いました。

民間児童クラブの実現可能性は？

そもそも、民間児童クラブの利用ニーズはどれほどあるのでしょうか。五月に市が行ったアンケート調査では、約８８％の保護者が利用を希望する意向があるとの結果が出ました。私は、**放課後の居場所に対する保護者のニーズが多様化する中で、公設クラブだけでなく、民間を含めた選択肢の充実を望む声が大きいと受け止めました。**

現在、九つの事業者が民間児童クラブ運営の参入意向を示しており、民間事業者誘致の実現可能性を確認することができているとのことです。

新たなまちの魅力のひとつに

放課後児童クラブは、保護者が安心して働き続けるための重要なインフラですので、誰もが利用できる公設児童クラブをしっかり確保していくことが大前提です。一方で、**民間児童クラブの導入は、公設クラブを補完するだけでなく、学習支援や英語活動など、特色あるサービスによる新たな選択肢を提供する役割も期待できます。**働く世代の多い刈谷市で、子育てと仕事を両立しやすい環境を整えるのはもちろん、**子どもたちがより質の高い教育や体験に触れられる環境整備は、まちの付加価値のひとつになると考えます。**そうした観点からも、民間児童クラブ導入実現に向けた積極的な取り組みを要望して質疑を終えました。

子どもと向き合う時間づくり

皆さんは半ドン経験者ですか？午前だけ授業や仕事をする半ドンは、小中学校では二〇〇二年度に完全週休二日制が導入されるまで続きました。授業時数も減り年間九四五時間となりましたが、ゆとり教育の見直しや外国語授業の導入等により、現在は一〇一五時間と逆戻りしています。近年では、教員の働き方改革が注目されるようになりましたが、改革道半ばというのが私の認識です。**教員の時間的・精神的負担軽減により、授業づくりや子どもたちとの関わりに、より注力できるようにしたい、との想いで、質疑を行いました。**

教員を支える新たな一手は

教員の時間的負担軽減策を問うたところ、**デジタル化の推進や研修・行事の削減、地域学校協働活動による地域人材の活用などで、実際の時間外在校等時間が月四五時間を超える教職員の割合が減少している**とのことでした。これらに加え、部活動対応の負担軽減として、外部指導人材の拡充なども行っていることを確認しています。

また、精神的負担も軽減すべきと考えています。**保護者対応などで何かしらのトラブルを抱えた経験がある教員の話は少なからず聞こえてきます。**トラブルが起こった場合のサポート体制を問うたところ、スクールロイヤーなどの専門家の活用や、教育委員会、子ども相談センターなどの関係機関との連携・支援をしているとのことでした。**生徒間トラブルや保護者対応などを学校から切り離してアウトソーシングする取り組みが成功している自治体もあり、刈谷市でも導入を検討してはどうかという提案も行いました。**他にもやるべきことがたくさんありますが、教員にとっても子どもにとっても魅力ある教育環境となるよう、今後も現場に学びながら、働きかけて参ります。

９月議会　市民文教委員会質疑②

教員の働き方改革進捗はいかに？

2026年
オレンジの女

市議の日常、ヒトコマ





左右／デンソー労働組合第64期後半期の定期大会に参加しました。大会に先立ち、林社長と鶴川委員長のトップ対談が行われました。デンソーの現在地と目指す未来、組合・職場役員への期待、働く仲間・労使トップの想いについて、悩みや葛藤も含めて語っていただき、組織内議員にとっても示唆に富んだ大変貴重な時間となりました。



上／刈谷市上空をブルーインパルスが飛ぶ光景です。アジア競技大会の開幕を記念して展示飛行が行われました。ベランダから鑑賞しましたが、あっという間の出来事でした。



上／デンソー労働組合の政策検討会に参加しました。
『子育て・教育』や『自動車産業の未来』『賃金・一時金』など、テーマ毎のグループに分かれて意見交換を行いました。



右／万燈祭の『子ども万燈』の担ぎ手を決めるオーディションのあと。緊張が解けた子どもたちの笑顔が素敵ですよね。本番でも立派な舞を披露してくれました。子どもも大人もお疲れ様でした。

[おしらせ]
ORANGE PRESS は、年間 4 回発行します。
日々の活動はSNSでも発信しています。
是非フォローをお願いします！DMにてご相談も賜ります。

Facebook X

[連絡先]　刈谷市昭和町1-1　デンソー労働組合　TEL 050-1728-3511